

健康教育指導充実の取組

北海道礼文高等学校 養護教諭 山本ゆりか

取組のきっかけ

生徒の様子から「自己肯定感を高めることが必要ではないか」また、礼文町で行われている保小中高連携教育の中で、「性に関する指導においても発達段階に応じて系統的に行うことでより効果的な指導ができるのではないか」と考えていました。

そんなときに「若者が夢や希望を持って生きていくこと」をねらいとした WYSH 教育に出会えたことが取組むきっかけとなりました。

取組の成果

まず、町内の保育所・小学校・中学校・高等学校各発達段階における指導計画を一覧にすることができたのが大きな成果です。同様に食に関する指導計画一覧表も作成し、全町上げて縦横のつながりを持った健康教育の整備ができました。

次に着任以来の課題に少しだけ成果がみられたことです。離島という地域の特性もあり、自己主張が上手にできない生徒や、自分に自信が持てない生徒が多かったのですが、「自分は大切にされている」と実感できることによって自己肯定感が高まり、目標を見つけてそれに向かって進んでいこうとする生徒が増えたと思います。

生徒が生き生きと目標に向かって頑張る姿やそれを応援する保護者や教員の姿を見るのは本当にうれしいことですし、若者が頑張る様子は礼文町のような僻地では地域の活力にもつながる気がします。

取組を進める上で心がけていること

一人一人の児童生徒と丁寧に関わる一方、広い視野を持って学校全体を見渡した指導がしたいと思っていますが、養護教諭には授業での関わりがない分、どうやってリレーションづくりをしていくかは現在でも取組を進めるうえでの自身の課題です。単独で取り組むのではなく組織的に進めるように心がけています。

自校においては WYSH 教育やアサーショントレーニングなど取り入れた教育を進めるにあたって管理職の理解や同僚の協力が大きな助けとなりました。また、町内の仲間の養護教諭、関係諸機関の方々にも、サポートしていただきました。研修に出していただいたり、校内で指導の時間をつくっていただいたり、実験の準備をしていただいたりと周囲の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今後の取組

健康教育のなかでも性に関する指導は、生徒が未来に向かってより豊かに生きていくために学校・家庭・社会教育の中で学んでほしいことですが、その領域が広く何を優先すべきか指導に苦慮しています。

めざすのは児童生徒達が、心身の健康を自分で管理できる大人になることです。

限られた時間の中ではありますが、今後も、自分も他人も大切にできる気持ちを養い、健康教育指導を学校・家庭・地域そして生徒とともにあらゆる方向からアプローチして行くための努力と工夫をしていきたいと思っています。